立憲民主党の立場（岡田克也幹事長記者会見_7 月 11 日）;

＜処理水の問題は二つあるのですね＞

一つは、科学的にどうかという問題です。それはもう科学的には一応答えは出ている。少なくとも、日本も含めて、他国の原発などから同じようなトリチウムが排出されているということなので、福島第一原発の処理水がそれらと比べて特段に問題だと言うことはできないと思っています。これは科学の問題なので、しっかりとその科学を踏まえて近隣の国々に対しても説明し、理解を得る努力ということが必要だと思います。政治的にそれを利用するようなことはあってはならないことだと思っています。

もう一つは、しかし、そうは言っても処理水が排出されたときに風評被害が広がるということが強く懸念されるわけで、特に漁業者の皆さんや、その関係の皆さんが、そういう風評被害が収まるように大変な努力をこの間続けてこられて、だんだん国民からも受け入れられるようになってきたということだと思います。それが、排出することで、またその風評被害が広がってしまうということを、おそらく漁業者の皆さんも非常に心配しておられて、そうならないための努力というのは政府に強く求められると思います。そのための努力が十分だとはとても思えないというふうに考えています

共産党の立場（赤旗電子版_7 月 16 日）;

＜海洋放出の強行は許されない＞

岸田文雄政権が、過酷な事故を起こした東京電力福島第１原発でタンクに保管している「ＡＬＰＳ（多核種除去設備）処理水」の海洋放出を今夏にも強行しようとしています。１１日には西村康稔経済産業相が漁業者に説明するため福島県に出向きました。漁業者は、海洋放出が水産業に大きな打撃を与えるとして、一貫して反対しています。政府は、「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」との約束を守るべきです。